

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	(仮称)熊本東京海上日動ビルディング	階数	地上7F、地下1F	外観パース等 外観図の貼り付けは、 【外観図】シートへ貼り付けしてください。	
建設地	熊本県熊本市中央区水道町5-11	構造	S造		
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	0 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	0 時間/年		
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2020年2月	評価の段階	2018年3月2日	外観パース等 外観図の貼り付けは、 【外観図】シートへ貼り付けしてください。	
敷地面積	1,150 m ²	評価の段階	塩田		
建築面積	968 m ²	評価の段階	2018年3月10日		
延床面積	8,032 m ²	評価の段階	菅波		
		評価の段階			

1 CASBEE評価結果	
■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	BEE = 1.5
■ ライフサイクルCO ₂ 排出性能(ランク表示)	排出率
	80%

2 熊本県重点評価結果	
■ 重点事項総合評価	評価点
	88
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	93.3
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	85.0
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	87.5
【重点事項4】 循環型社会の実現	83.2
※評価点は、100点以上が推奨です。	

CASBEE®-建築(新築)

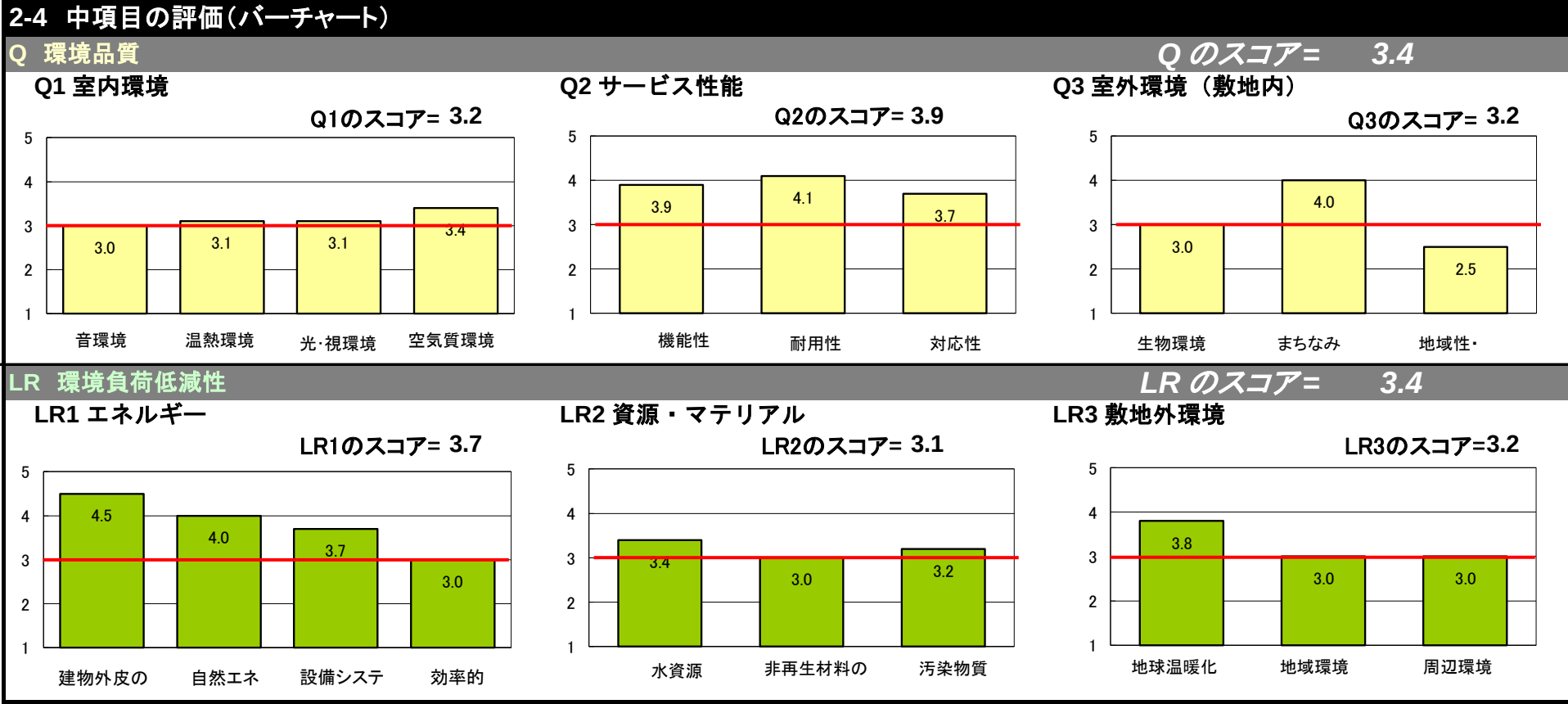
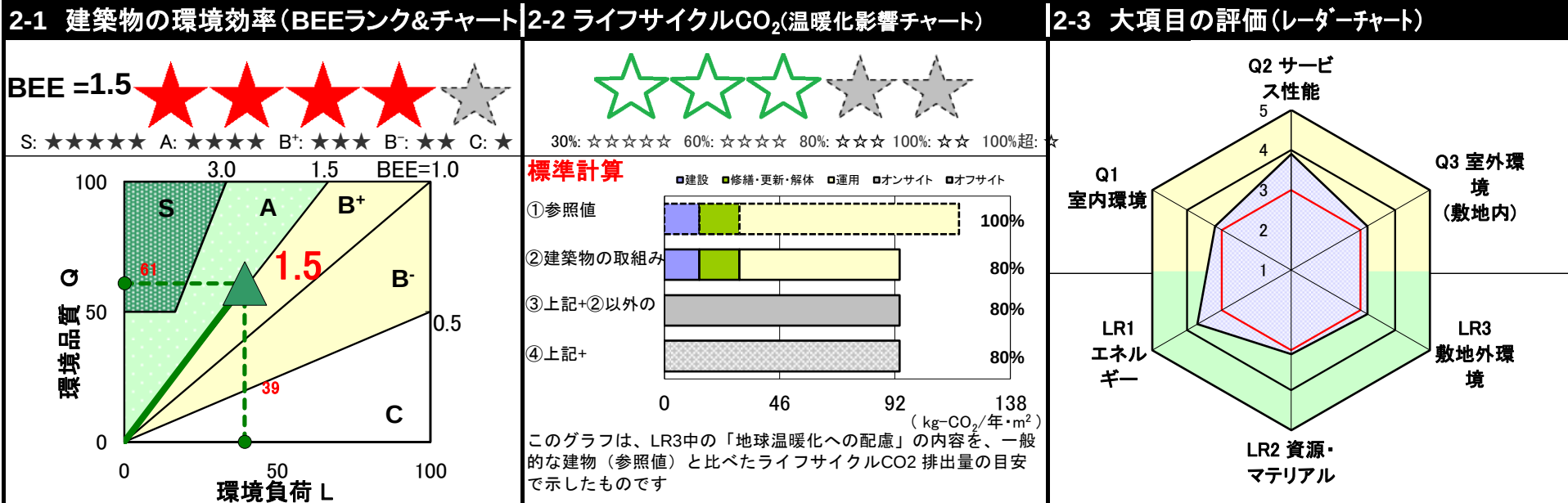
評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)熊本東京海上日動ビルディング	階数	地上7F、地下1F	
建設地	熊本県熊本市中央区水道町5-11	構造	S造	
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	400 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	720 時間/年(想定値)	
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2020年2月 予定	評価の実施日	2018年3月2日	
敷地面積	1,150 m ²	作成者	塩田	
建築面積	968 m ²	確認日	2018年3月10日	
延床面積	8,032 m ²	確認者	菅波	

外観パース等

図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)熊本東京海上日動ビルディング■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								3.4
Q1 室内環境					0.40		-	3.2
1 音環境				3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境				3.1	0.35	-	-	3.1
2.1 室温制御				3.3	0.50	-	-	
1 室温				3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能				3.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性				4.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御				3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境				3.1	0.25	-	-	3.1
3.1 昼光利用				3.0	0.30	-	-	
1 昼光率				3.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口				-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御				3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度		事務所基準照度: 700lx		4.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境				3.4	0.25	-	-	3.4
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質				4.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気				3.3	0.30	-	-	
1 換気量				4.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能				3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理				2.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視				1.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御				3.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.9
1 機能性				3.9	0.40	-	-	3.9
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性				3.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画				3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観				4.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース				4.0	0.33	-	-	
3 内装計画				4.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理				5.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				5.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				4.1	0.30	-	-	4.1
2.1 耐震・免震・制震・制振								

3 対応性・更新性			3.7	0.30	-	-	3.7	
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	3.7	
1	階高のゆとり	執務室の床用積載荷重を4900N/m2とした。	5.0	0.60	3.0	-		
2	空間の形状・自由さ		4.0	0.40	3.0	-		
3.2 荷重のゆとり			4.0	0.30	3.0	-		
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-		
1	空調配管の更新性		2.0	0.20	-	-		
2	給排水管の更新性		4.0	0.20	-	-		
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-		
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.2	
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0	
2 まちなみ・景観への配慮			4.0	0.40	-	-	4.0	
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5	
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-		
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.4	
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.7	
1 建物外皮の熱負荷抑制			4.5	0.20	-	-	4.5	
2 自然エネルギー利用			4.0	0.10	-	-	4.0	
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.73	3.7	0.50	-	3.7	
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-		
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-		
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-		
集合住宅の評価			-	-	-	-		
4.1	モニタリング		-	-	-	-		
4.2	運用管理体制		-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1	
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4	
1.1 節水			4.0	0.40	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-		
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-		
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60	-	-	3.0	
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.20	-	-	3.2	
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.70	-	-		
1	消火剤		4.0	0.33	-	-		
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-		
3	冷媒		3.0	0.33	-	-		
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2	
1 地球温暖化への配慮			3.8	0.33	-	-	3.8	
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0	
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-		
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-		
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-		
3	交通負荷抑制		4.0	0.25	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-</		

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。
働きやすく、BCP対応を重要視した事務所建物を目指しています。
デザインについては、熊本の雄大な自然と熊本城をモチーフとした、多彩な表情のデザインとしています。

Q1 室内環境

注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
室内環境については、適切な温度・光・音環境の計画とし、事務所での作業環境が良好となる計画としています。

Q2 サービス性能

注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
サービス性能については、必要十分な広さ・天井高さ、耐震性能とすることにより、安全で快適な空間を計画します。

Q3 室外環境（敷地内）

注) 「Q3 室外環境（敷地内）」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
室外環境については、街並みに配慮した、熊本らしいデザインとしています。また、人が多く集まる交差点の良好な景観を形成します。

LR1 エネルギー

注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
エネルギー効率性の高い設備を使用するとともに、無駄の少ない設備機器の計画とします。

LR2 資源・マテリアル

注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
木材やリサイクル素材、有害物質の発生が少ない環境に配慮した素材の使用に努めます。

LR3 敷地外環境

注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
周辺地域への影響を考慮した、交通計画、排水計画、騒音対策を行います。

その他

注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)熊本東京海上日動ビルディング

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果					総合評価点	88
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				93.3	0.40	37.32
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.5	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	4.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.7	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				85	0.20	17.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	5.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				87.5	0.20	17.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	4.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				83.2	0.20	16.64
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.4	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数